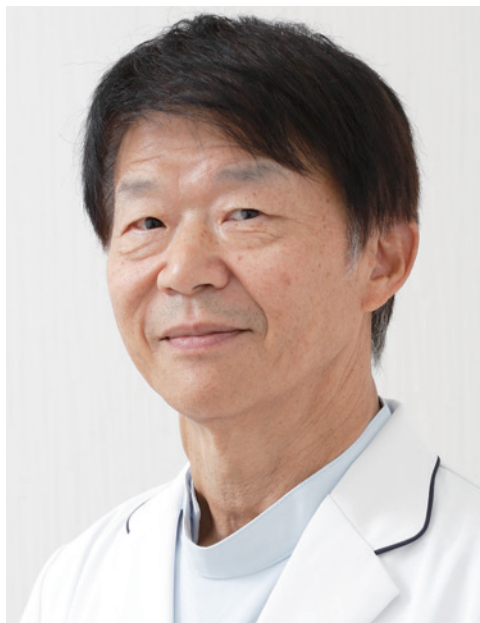


マエストロに聞く

# 大原國章

O H A R A Kuniaki

赤坂虎の門クリニック皮膚科



## 顔の皮膚癌を見逃さないコツ

美容皮膚科の診療において、皮膚癌に遭遇する頻度はそう多くはないが、命にかかわる癌の誤診は医療訴訟などのトラブルにもつながり、その鑑別のスキル向上は必須である。今回は、皮膚癌の第一人者であり、手術、ダーモスコピー、病理についても多くの著書、論文を発表している、赤坂虎の門クリニック皮膚科の大原國章先生に、皮膚癌を見逃さないためのコツについて実症例をもとにお話をうかがった。

### 高齢化で増える日光角化症

顔に発症する皮膚癌について、最近の傾向を教えてください。

顔にできる皮膚癌で代表的なものは、基底細胞癌(basal cell carcinoma; BCC)、メラノーマ(悪性黒色腫)、有棘細胞癌、そして日光角化症の4つです。なかでも日常診療で最も多くみられるのが日光角化症です。日光角化症は、皮膚癌の超早期ともいべき疾患ですが、最近、高齢化に伴いこの疾患の患者さんが増えてきていると感じます。

日光角化症を見逃さないためのポイントがありますか。

日光角化症はシミと間違えやすく、鑑別が困難です。おもに太陽光に曝される手や顔に発症し、複数発症す

ることが多いのが特徴です。少し痛痒いと感じることはありますが、基本的に自覚症状はありません。

日光角化症には、疣贅のように硬く盛り上がり角化する型と、ジुकジुकと赤くただれる型の2種類が存在します。図1Aは角化するタイプで、図1Bは赤くただれるタイプです。どちらかのタイプだけ発症することもあれば、同じ患者さんに両方のタイプが併発することもあります。角化するタイプは、かさぶたが皮膚に固着してなかなか剥がれにくく、周囲の皮膚を引っ張ることが特徴の1つです。一方、赤くただれるタイプは徐々に範囲が広がっていきます。ジुकジुकしたただれが塗薬でいったん乾燥しても、再び患部がただれて広がっていきます。

### 顔の黒子と間違えやすいのは基底細胞癌

黒子の除去を主訴に来院された場合、皮膚癌との鑑別が必要ですが、見分け方のコツはありますか。

黒子と悪性黒色腫の関係については昔から議論がありますが、黒子が悪性黒色腫に進行することはありません。黒子のように見えていたものが実は早期の皮膚癌だったというケースがあるので、黒子が癌化したという誤解が生じたのでしょう。顔に限れば、黒子と見分けにくいのは、むしろ基底細胞癌です。基底細胞癌も、黒っぽくて小さい黒子のような状態で発症します。5mm～1cm程度であれば肉眼でも鑑別できますが、1～2mmの小さいものは誤診しやすいので、ダーモスコピーを使用す